

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125340		
法人名	医療法人東洋病院		
事業所名	グループホーム千寿園		
所在地	徳島市北島田町1丁目126-6		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念「健康・笑顔・地域の中で絆と信頼をきづく千寿園」を日々心がけている。利用者様の認知症進行や重度の方への入所生活に対応出来る様スタッフが情報を共有化して、安心・安全に生活出来る様に努めている。またスタッフも家族の様な関係を保ちながらも実際に家族様と過ごしてもらう時間を持って頂くため(敬老会・運動会)などの行事を行い食事やゲームなどをしてふれあいの時間を持って頂いている。同一法人の運営する医療機関や施設があり、急変時などは24時間対応可能な体制になっている。自家農園の野菜や家族様、近隣の差し入れの野菜などの選別なども手伝ってもらい意欲を持ってもらっている。また園内行事などを利用して認知症サポート養成講座などを行い家族の方に認知症への理解を深めて頂き普段の生活に於いても対応してもらえる様な機会をもっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者一人ひとりの有する力を活かしつつ、職員とともに花壇の花の手入れや食事づくりを行っている。管理者と職員は、日頃の業務の見直しを行うなどして、利用者一人ひとりに寄り添って対話する時間を増やすようにしている。運営推進会議では、事業所から行事や自己・外部評価、感染症予防対策等の説明を行い、出席者から意見や助言を出してもらっており、活発な会議運営を行っている。利用者がオシャレをしてファッションショーを行う、“浴衣会”を開催するなどの工夫も見受けられる。運動会等では、家族や近隣住民、知人、友人等による、準備や後片付けなどの運営面への参画を得ており、地域密着型サービスの意義を踏まえた地域との連携や協力体制を構築している。敷地内には医療機関や各種介護サービス事業所があり、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回レク等の時間に利用者、職員で「理念」の合唱を呼吸リハの一環として行っている。又施設内月一の勉強会においても、理念に沿ったサービスが実施されているかの見直しを行っている。	毎朝、利用者と職員で理念を唱和している。また、年1回の自己評価を行う際、事業所の現状やサービスが理念に応じたものであるかどうかを確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時自体が行う定期的な清掃参加、近隣保育園との定期的な交流会や保育園行事に参加したり、ボランティアの訪問や近隣の方から野菜の差し入れ等がある。又秋祭りなど参加もあり地域との交流を深めている	事業所として、地域の自治会の行事等に参加している。近隣住民から、家族の介護に関する相談を受けたり、認知症キャラバンメイト養成研修等を行ったりして、地域の福祉拠点としての役割を担うよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人主催の行事(夏祭り・阿波踊り大会・秋祭り)に参加し、必要な時はホーム内を提供したりホーム前の駐車場にて行ったり近隣地域や法人施設利用者等の交流を行っている。又その都度介護相談も行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催、ホームでの生活状態をスライドを利用し状況報告や情報交換を行っている。又頂いた助言や意見はサービスに繋げる様にしている。行事等の案内等は町内会長を通じて地域に声かけを行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、地域の代表者、市担当者の出席を得ている。管理者が職員の中から会議担当者を決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の実績報告書や運営推進会議議事録等は定期的に提出。質問や相談については市町村担当者まで出向いたりTEL等にて助言や意見等を取り入れサービス、質の向上に繋げている。	職員は市担当窓口を訪問し、事業所の実情や取り組みを伝えている。その際、介護保険制度改定について質問したり、アドバイスを得たりして、密に連携を図るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・ホールは、施錠しておらず開放にしている。利用者に寄り添い拘束のない生活が出来るように援助している。	事業所では、身体拘束による弊害や権利擁護に関する勉強会の機会を設けている。玄関を開放し、利用者が圧迫感や閉塞感を感じることはないよう配慮している。職員は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会や勉強会にて管理者及び職員間での意識徹底すると共に、精神的チェック又は入浴時・毎日の衣類交換時などには身体チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様からの相談に対してその都度話し合いを行いより良い対応が出来るように支援している。また勉強会の参加も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に関しては理解しやすい様に説明を行い、理解を得た後に文章による同意を得ている。また、その後に生じた疑問等に対しても随時文章にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置、随時受け付けしている。家族様面会時には希望や意見が言いやすいように配慮している。出された意見等には、職員会議で検討し運営面に反映している。	職員は、家族の来訪時に意向や希望を聞くようにしている。また、話しやすい雰囲気づくりにも留意している。出された意見等は、職員間で話し合うなどして運営面に反映させている。職員間で検討した経過や結果を、利用者や家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会全スタッフ参加の元意見交換、提案や意見を引き出す機会を設けている。また日頃の業務中で職員の自主性を尊厳し働く意欲向上や質の確保に努めている。勉強会には代表者や管理者参加。	月1回、管理者と職員間で、事業所の運営やケアに関するアイデアについて話し合っている。代表者や管理者は、出された意見について検討したり、職員一人ひとりの力量と個性を生かした職場環境の整備に努めたりして、働く意欲やサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが個々にやりがいや向上心を持って働ける職場作りを心がけている。職員の個性や性格等にも配慮。業務上不都合な事も管理者・スタッフ共に参加話し合いの機会を設けて働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や勉強会等の参加をし技術や知識の向上に努めている。又法人組織内の研修・勉強会にも参加し介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護療養型施設・通所リハビリ・短期入所生活介護事業所との交流を図りサービスの向上に努めている。定期的に事例検討会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者同士の交流がスムーズに行える様に希望者は体験等も行っている。共同生活環境に不安なく入ることが出来るような環境作りを援助を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活状況や癖、本人の要望を聞くと共に施設におけるサービス内容を説明し、入所前見学時には質問に応じ、職員との信頼関係が持てるように心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・他のサービス事業所等での生活歴等の情報提供を受け、本人・家族様の要望等を把握しサービスの計画。又入所後生活の変化に応じた新しいサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設にて掃除、洗濯、調理等出来る事への積極的な参加を促し、野菜作りを通じて、収穫を共にし食する事により、共同の喜びを持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な千寿園だよりによるホームでの生活状況の報告すると共に行事への参加を依頼している。行事は年間2～3回「運動会・敬老会・秋まつり」等、家族様と利用者で各居室にて食事の提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会・運動会は利用者の友達や親戚の方参加も見られる様になる。また間では畑で取れた野菜等を持参して頂くお祭り時期にはお弁当を持参して来られ利用者の居室で食べられる。	事業所では、敬老会や運動会等を開催するなどして、家族や親戚、友人、知人、地域で暮らす馴染の方々など、多くの参加を得ている。また、家族の協力を得たうえで、墓参りや外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクにて利用者の交流を図り、利用者同士で助け合い、支援に努めている。散歩時等は独歩の方は車椅子を押していただき利用者同士の信頼関係も持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院された場合には出来る限り面会に行き、相談や支援に努めている。家族様等の相談にも応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との関わりの中で会話や表情に着目し、希望や意向の把握に努めその人らしい暮らしが送れるように支援している。また意向が困難な方には家族から情報を得たり職員間で話し合いを行っている。	職員は、日頃の利用者との暮らしの中で、一人ひとりの言葉や表情の変化等から、意向を把握するように努めている。把握した意向は、職員間で話し合って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの籠を用意し洗濯物などは自分でたたみタンス等に整理できるように援助を行っている。また食事の配膳や盛り付け、後片付け、食器洗いなどは積極的に頂きレベルの低下防止努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や趣味等を理解し手伝いの依頼等を行う様にしている。お花の好きな方は花壇等の手入れや鉢植え、料理の好きな方は野菜の選別や盛り付け、掃除の好きな方は洗面台やロビーの掃除を担当して行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが継続出来る様自立支援に向けてチームでケアプランを作成。3か月に1回見直し月に1回のモニタリングを行う。また日頃介護業務の中で異変や気づきを大切にし対応策の検討を随時行う。	本人や家族、関係者等で話し合って介護計画を作成している。3か月ごとに計画の見直しを行っている。利用者の状況変化や家族等の要望に応じて、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症の進行に伴う暴言や暴力への対応もその都度話し合い、職員間での情報の共有し相違がない様に努めている。また介護記録等には記載し早めの気づきができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩等は出来るだけ個々に行っている。食事に関してもその人その人の形態合わせて対応している。また利用者の体調や気分に応じた生活が行える様に心配りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当病院主催の「秋祭り・花火大会」参加にて交流又ボランティアによる催し物にも参加し出来る限り地域の方とのふれあい等を行っている。近隣の保育園児との交流会も開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で行っている。協力医療機関とは、24時間連絡可能な体制になっている。かかりつけ医の定期的な受診の付き添うも行い情報提供も行っている。	利用者全員が事業所の協力医療機関を主治医としている。専門科の受診時等には、職員が付き添うなどして日頃の状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、体調の変化等に関しては連携看護師に報告、速やかに対応が出来る様にしている。また受診が必要な場合も速やかに援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の急変時入院等が必要な場合は、介護サマリー・ホームでの生活状態やADL等の報告を文書にて行い入院中に不安等にならない様に援助を行う。また早期退院後のケアが安全に行える様に情報提供がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や同意書を契約時に本人家族の同意を得ている。段階ごとに、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医師や関係者と相談し、対応方針の共有に取り組んで情報が密に共有出来る様にチームで取り組んでいる。	事業所では、看取りに関する指針を作成している。契約時の段階で、本人や家族に事業所の方針を説明し、同意を得ている。協力医療機関と密に連携を図るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態等の低下が著しい利用者に対して個々に対応が出来る様に研修・勉強会等を実施している。また問題等が見られる場合は、随時フィードバックを行い改善を図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防協力を得た上で法人全体による防火訓練参加、また初期消火や避難訓練等に利用者や地域住民も参加。災害マニュアルや備蓄等の準備も行い毎日のレク等にも慌てず行動出来る様訓練している。	事業所では、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、法人全体で合同訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や習慣、意見などを尊重に努める様に心がけさりげない声かけや誘導、自尊心を傷つけず自己決定が出来るように援助を行っている。	職員の言葉がけや口調、またはその内容等が、利用者のプライバシーを損ねていないかなどについて職員間で相互に注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に対して表情・変化・行動に注意し介護記録等に記載その都度その都度スタッフ間で話し合いにおいて対応や援助を行っている。入浴拒否や食事拒否が見られても時間をかけて何度も対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のケアプランをもとに、本人に合った生活が出来る様にしており、趣味や娯楽も本人本位で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活にメリハリを持つ為に夜間はパジャマ・日中は私服に着替え生活を行っている。季節ごとに衣類等の整理も利用者と共にやる。行事等の参加の時は自分が好んでいるおしゃれな衣類を着たりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節季節の野菜を使用した料理や利用者の好みを聞き献立を作っている。またミキサー食や粥食の方にも味付けなどの工夫を行っている。畑で出来た野菜等の選別は利用者が行っている。	利用者と職員で食事をつくっている。献立は、法人の栄養士と相談して立てている。近隣住民から新鮮な野菜を差し入れてもらうこともあり、食材として活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者に対してチェック表を用いてチェックを行い1日の摂取量の把握を行っている。食事量の少ない方には高カロリーを用いたり個々の好みに合わせた食事の提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食事における口腔ケアは毎回行っている。また自分で出来ない方にも援助している。夜間においては、義歯等を預かりポリドントにて義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し可能な限り日中はトイレ誘導を行っている。夜間等もP-タブル使用にて対応等もやっている。	職員は、利用者の排泄パターンの把握に務め、円滑な誘導を行うようにしている。日中はトイレへ誘導し、排泄の自立を支援している。排泄を失敗したときには、本人の自尊心に配慮しつつさりげない対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無や回数は職員が管理している。便秘の方は座薬や内服にて調節している。また便秘予防のために水分量やヨーグルト等を摂取出来るようにしている。集団レクや散歩等にて運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴を施行。体調の悪い時は清拭であったり入浴日の変更なども行う。また入浴拒否が見られる利用者に対しても再三の声かけや気分転換を図りながら本人の意向に沿って行っている。	事業所では、少なくとも週3回は入浴してもらえるよう支援している。入浴を拒む利用者には、言葉かけを工夫したり、気分転換を図ったりして無理強いないことを入浴できるよう支援している。異性の職員の介助の場合は、利用者の気持ちを優先し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は21時としているが、自分のペースで居室にTVを見たりしている。夜間不穏や不眠の方には夕方散歩に出かけたりして軽度の疲労感が持てるように援助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し服薬していただいている。また服薬後は口腔内のチェックも行っている。臨時薬等が処方されている時もチェック表を元に服用し病状報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に出来る事の役割分担を行い体調悪い時などは他の利用者が交代で行っている。また家族様から花の苗などの提供もあり鉢植えや花壇にて花の植え付け等もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩においては利用者さんの個々のレベルに合わせて午前・午後と行っている。また花見や遠足等も利用者個々のレベルに合わせて行っている。墓参りや買い物等に関しては家族様と協力し行っている。	利用者一人ひとりの希望に応じて出かけることができるよう、個別や少人数での外出を支援している。気候の良いときには、近隣を散歩したり、花壇の手入れや鉢植えの水やりをしたりしている。家族の協力を得て、買い物や墓参りなど、馴染みの場所に出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			せんりょう 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症で軽度の方は自分で新聞代の支払いを行っている。また時折近くのコンビニまで散歩がてら出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話はいつでもかけられる様に支援し、家族様が電話口に出られるまで職員が対応している。携帯電話持参の方も見られる。充電等は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく落ち着いて生活が出来るように、また利用者同士の交流が出来るように心がけている。ホール玄関は季節季節の鉢植え、ホール壁には利用者さんの季節季節の作品を展示している。	気候の良い日には、窓を開放して空気の入れ替えを行っており、感染予防にも注意している。玄関からホールにかけてゆったりとしたスペースがあり、日当たりもよく利用者が過ごしやすい空間となっている。玄関に鉢植えを置いたり、ホールの壁面に利用者の作品を飾ったりして、季節を感じることでできる環境整備を行っている。浴室やトイレ、洗面所等を清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内テーブル2ヶ所、ソファやテーブルを1ヶ所、畳コーナーを設置、作業やゲーム・フラワーアレンジメント等の趣味や気の合った同士が過ごせる様に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等は基本的に施設の物を使用しているが、最近では殆どの利用者様は在宅で使用していた軽い布団を持参。各自テレビや冷蔵庫・衣装ケースなどを持参し使い慣れた調度品等を持参している。	利用者一人ひとりの馴染みの小物や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。本人や家族と相談し、居室の掃除や整頓を行うなどして、利用者が居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内階段等に手すりがあり歩行が安全に出来る様にしている。洗濯機も使用できる方は自由に使える様にしている。洗濯干し場や取り入れも自由に出来るようにバリアフリーにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回レク等の時間に利用者、職員で「理念」の合唱を呼吸リハの一環として行っている。又施設内月一の勉強会においても、理念に沿ったサービスが実施されているかの見直しを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時自体が行う定期的な清掃参加、近隣保育園との定期的な交流会や保育園行事に参加したり、ボランティアの訪問や近隣の方から野菜の差し入れ等がある。又秋祭りなど参加もあり地域との交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人主催の行事(夏祭り・阿波踊り大会・秋祭り)に参加し、必要な時はホーム内を提供したりホーム前の駐車場にて行ったりし近隣地域や法人施設利用者等の交流を行っている。又その都度介護相談も行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催、ホームでの生活状態をスライドを利用し状況報告や情報交換を行っている。又頂いた助言や意見はサービスに繋げる様にしている。行事等の案内等は町内会長を通じて地域に声かけを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の実績報告書や運営推進会議議事録等は定期的に提出。質問や相談については市町村担当者まで出向いたりTEL等にて助言や意見等を取り入れサービス、質の向上に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・ホールは、施錠しておらず開放にしている。利用者に寄り添い拘束のない生活が出来るように援助している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会や勉強会にて管理者及び職員間での意識徹底すると共に、精神的チェック又は入浴時・毎日の衣類交換時などには身体チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりょう 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様からの相談に対してその都度話し合いを行いより良い対応が出来るように支援している。また勉強会の参加も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に関しては理解しやすい様に説明を行い、理解を得た後に文章による同意を得ている。また、その後に生じた疑問等に対しても随時文章にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設置、随時受け付けている。家族様面会時には希望や意見が言いやすいように配慮している。出された意見等には、職員会議で検討し運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会全スタッフ参加の元意見交換、提案や意見を引き出す機会を設けている。また日頃の業務中で職員の自主性を尊重し働く意欲向上や質の確保に努めている。勉強会には代表者や管理者参加。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが個々にやりがいや向上心を持って働ける職場作りを心がけている。職員の個性や性格等にも配慮。業務上不都合な事も管理者・スタッフ共に参加話し合いの機会を設けて働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や勉強会等の参加をし技術や知識の向上に努めている。又法人組織内の研修・勉強会にも参加し介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護療養型施設・通所リハビリ・短期入所生活介護事業所との交流を図りサービスの向上に努めている。定期的に事例検討会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	まんりよう 実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者同士の交流がスムーズに行える様に希望者は体験等も行っている。共同生活環境に不安なく入ることが出来るような環境作りを援助を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活状況や癖、本人の要望を聞くと共に施設におけるサービス内容を説明し、入所前見学時には質問に応じ、職員との信頼関係が持てるように心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・他のサービス事業所等での生活歴等の情報提供を受け、本人・家族様の要望等を把握しサービスの計画。又入所後生活の変化に応じた新しいサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設にて掃除、洗濯、調理等出来る事への積極的な参加を促し、野菜作りを通じて、収穫を共にし食する事により、共同の喜びを持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な千寿園だよりによるホームでの生活状況の報告すると共に行事への参加を依頼している。行事は年間2～3回「運動会・敬老会・秋まつり」等、家族様と利用者で各居室にて食事の提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会・運動会は利用者の友達や親戚の方参加も見られる様になる。また間では畑で取れた野菜等を持参して頂くお祭り時期にはお弁当を持参して来られ利用者の居室で食べられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクにて利用者の交流を図り、利用者同士で助け合い、支援に努めている。散歩時等は独歩の方は車椅子を押していただき利用者同士の信頼関係も持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりょう 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院された場合には出来る限り面会に行き、相談や支援に努めている。家族様等の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との関わりの中で会話や表情に着目し、希望や意向の把握に努めその人らしい暮らしが送れるように支援している。また意向が困難な方には家族から情報を得たり職員間で話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの籠を用意し洗濯物などは自分でたたみタンス等に整理できるように援助を行っている。また食事の配膳や盛り付け、後片付け、食器洗いなどは積極的にして頂きレベルの低下防止努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や趣味等を理解し手伝いの依頼等を行う様にしている。お花の好きな方は花壇等の手入れや鉢植え、料理の好きな方は野菜の選別や盛り付け、掃除の好きな方は洗面台やロビーの掃除を担当して行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが継続出来る様自立支援に向けてチームでケアプランを作成。3か月に1回見直し月に1回のモニタリングを行う。また日頃介護業務の中で異変や気づきを大切にし対応策の検討を随時行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症の進行に伴う暴言や暴力への対応もその都度話し合い、職員間での情報の共有し相違がない様に努めている。また介護記録等には記載し早めの気づき出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩等は出来るだけ個々に行っている。食事に関してもその人その人の形態合わせて対応している。また利用者の体調や気分に応じた生活が行える様に心配りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりょう 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当病院主催の「秋祭り・花火大会」参加にて交流又ボランティアによる催し物にも参加し出来る限り地域の方とのふれあい等を行っている。近隣の保育園児との交流会も開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で行っている。協力医療機関とは、24時間連絡可能な体制になっている。かかりつけ医の定期的な受診の付き添うも行い情報提供も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、体調の変化等に関しては連携看護師に報告、速やかに対応が出来る様にしている。また受診が必要な場合も速やかに援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の急変時入院等が必要な場合は、介護サマリー・ホームでの生活状態やADL等の報告を文書にて行い入院中に不安等にならない様に援助を行う。また早期退院後のケアが安全に行える様に情報提供がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や同意書を契約時に本人家族の同意を得ている。段階ごとに、本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医師や関係者と相談し、対応方針の共有に取り組んで情報が蜜に共有出来る様にチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態等の低下が著しい利用者に対して個々に対応が出来る様に研修・勉強会等を実施している。また問題等が見られる場合は、随時フィードバックを行い改善を図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防協力を得た上で法人全体による防火訓練参加、また初期消火や避難訓練等に利用者や地域住民も参加。災害マニュアルや備蓄等の準備も行い毎日のレク等にも慌てず行動出来る様訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や習慣、意見などを尊重に努める様に心がけさりげない声かけや誘導、自尊心を傷つけず自己決定が出来るように援助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に対して表情・変化・行動に注意し介護記録等に記載その都度その都度スタッフ間で話し合いにおいて対応や援助を行っている。入浴拒否や食事拒否が見られても時間をかけて何度も対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のケアプランをもとに、本人に合った生活が出来る様にしており、趣味や娯楽も本人本位で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活にメリハリを持つ為に夜間はパジャマ・日中は私服に着替え生活を行っている。季節ごとに衣類等の整理も利用者と共に行う。行事等の参加の時は自分が好んでいるおしゃれな衣類を着たりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節季節の野菜を使用した料理や利用者の好みを聞き献立を作っている。またミキサー食や粥食の方にも味付けなどの工夫を行っている。畑で出来た野菜等の選別は利用者が行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者に対してチェック表を用いてチェック行い1日の摂取量の把握を行っている。食事量の少ない方には高カロリーを用いたり個々の好みに合わせた食事の提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食事における口腔ケアは毎回行っている。また自分で出来ない方にも援助している。夜間においては、義歯等を預かりポリドントにて義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりょう 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し可能な限り日中はトイレ誘導を行っている。夜間等もP-タブル使用にて対応等もっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無や回数は職員が管理している。便秘の方は座薬や内服にて調節している。また便秘予防のために水分量やヨーグルト等を摂取出来るようにしている。集団レクや散歩等にて運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴を施行。体調の悪い時は清拭であったり入浴日の変更なども行う。また入浴拒否が見られる利用者に対して再三の声かけや気分転換を図りながら本人の意向に沿って行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯は21時としているが、自分のペースで居室にTVを見たりしている。夜間不穏や不眠の方には夕方散歩に出かけたりして軽度の疲労感が持てるように援助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し服薬していただいている。また服薬後は口腔内のチェックも行っている。また服薬後は口腔内のチェックも行っている。臨時薬等が処方されている時もチェック表を元に服用し病状報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に出来る事の役割分担を行い体調悪い時などは他の利用者が交代で行っている。また家族様から花の苗などの提供もあり鉢植えや花壇にて花の植え付け等もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩においては利用者さんの個々のレベルに合わせて午前・午後と行っている。また花見や遠足等も利用者個々のレベルに合わせて行っている。墓参りや買い物等に関しては家族様と協力し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			まんりよう 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症で軽度の方は自分で新聞代の支払いを行っている。また時折近くのコンビニまで散歩がてら出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話はいつでもかけられる様に支援し、家族様が電話口に出られるまで職員が対応している。携帯電話持参の方も見られる。充電等は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく落ち着いて生活が出来るように、また利用者同士の交流が出来るように心がけている。ホール玄関は季節季節の鉢植え、ホール壁には利用者さんの季節季節の作品を展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内テーブル2ヶ所、ソファやテーブルを1ヶ所、畳コーナーを設置、作業やゲーム・フラワーアレンジメント等の趣味や気の合った同士が過ごせる様に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具等は基本的に施設の物を使用しているが、最近では殆どの利用者様は在宅で使用していた軽い布団を持参。各自テレビや冷蔵庫・衣装ケースなどを持参し使い慣れた調度品等を持参している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内階段等に手すりがあり歩行が安全に出来る様にしている。洗濯機も使用できる方は自由に使える様にしている。洗濯干し場や取り入れも自由に出来るようにバリアフリーにしている。		